

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎・基本を身に付け、学習したことを活用し、豊かに表現できる児童の育成
(既習の定着・活用する力・説明する力)
- ②最後までめあてを意識して授業に取り組むことができる児童の育成
(めあてと振り返りを大切に授業・学習意欲を引き出す授業の工夫)

栄喰小学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員 校長:新居 正司 教頭:喜多 将記
鎌田 崇佐	教務主任:中野 敬
	研修主任:元木 理恵
	特別支援教育コーディネーター:山本 千紘

校長

新居 正司

◎次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身につけている児童が多い。 ●学年相応の語彙の習得が不十分な児童が多い。	・漢字と計算を中心に、今年度学習した内容を定着できる。(既習の定着) ・学年相応の語彙を習得できる。(語彙力)	・デジタル学習ソフト「キュビナ」や朝のチャレンジタイムに計画的に取り組むことで、既習の学習内容の定着を図る。(モジュール学習の充実) ・読書や調べ学習等、学習内容に応じて、積極的に学校の図書室や地域の図書館を活用する。(学校・地域の図書館利用の充実)			

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、説明したりすることができる児童が多い。 ●自分の考えや意見を筋道立てて説明することに苦手意識をもっている児童が少なからずいる。 ●身に付けた知識・技能を活用する意識が低い。	・習得した語彙を生かして、自分の考えや意見を筋道立てて説明することができる。(説明する力) ・身に付けた知識・技能を進んで活用し、考えたり表現したりすることができる。(活用する力)	・ペアやグループの小グループで、自分の考えや意見を伝え合う場を設定することで、全員に話す機会を保障する。 (インプットしたことをアウトプットする時間の保障) ・本時の学習が既習の学習とどのようにつながっているか、普段の生活とどのように結びついているかを意識した授業づくりを行う。(カリキュラムマネジメント)			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○素直で、与えられた課題に一生懸命取り組むことができる児童が多い。 ●最後まで集中して授業に取り組んだり、めあてをもって学習したりすることに課題ある。	・最後までめあて(学習問題)を意識して、粘り強く学習に向かうことができる。(粘り強く取り組む力) ・毎時間の学習の振り返りから、次のめあてをもつことができる。(自己調整力)	・生活経験や既習の学習内容など、児童の発言からめあてをつくることで、最後までめあて(学習問題)を意識して授業に取り組むことができるようにする。(児童主体のめあてづくり) ・学習の振り返りを書く時に、キーワードを提示したり、書き出しを限定したりすることで、次時につながる振り返りが書けるようにする。(めあてと振り返りの連動) ・タブレットやホワイトボードを活用するなど、児童一人一人が進んで授業に参加できるようにする。(ICT活用の充実)			

令和6年度 学力向上ロードマップ

